



東陽病院 院長 伊藤 文憲

腎臓は体の背中側に左右一対あります。腎不全に対する治療法として行われる生体腎臓移植をご承知のように、一つになつても機能が低下しないように余裕があります。

腎臓は血液の中から体に不要で有害な老廃物を体外に出すのが主たる仕事です。ネフロンという組織が左右の腎臓の中にそれぞれ100万個もあります。ネフロンは腎臓の中の毛細血管の塊である糸球体とそれに連なる尿細管から構成されます。糸球体で血液を濾過し、尿細管で蛋白質やナトリウムやカリウム等の電解質を再吸収して、体の中の状態を一定に保つように調節しています。

ネフロンで作られた尿は腎臓の中心の腎盂に集まり、左右の尿管を介して膀胱に貯まります。腎盂から尿管・膀胱の病気は内科よりも泌尿器科の方が専門になります。腎癌等の病気です。

糸球体の働きは老廃物の濾過が主体ですが、まれな病気としては多量の蛋白質が糸球体から尿に出

※ 東陽病院の休日当番日

6月15日(日)・29日(日) 午前9時～午後5時  
医師2名が待機・来院の際は電話を

☎⑧1335

## 健康へのメッセージ

シリーズ⑪

### 腎臓の病気(I)

光町の皆さんこんにちは。今回は腎臓についてのお話をします。今までの消化器病から離ますが、お腹の背側にある臓器で、前月に述べた五臓の一つであり、重要な臓器でありますのでこの機会に腎臓について述べてみたいと思います。

腎臓は体の背中側に左右一対あります。腎不全に対する治療法として行われる生体腎臓移植をご承知のように、一つになつても機能が低下しないように余裕があります。

腎炎は糸球体に異常が生じてその濾過機能が低下するものが病気の本体です。急性腎炎は、小児期に風邪の症状に続いて倦怠感・血尿・蛋白尿や全身の浮腫などで発症します。急性期が過ぎて治癒する例が多いのですが、無症状のまま炎症が持続する例では、数十年という長い期間をかけて徐々に進行し、慢性腎炎から慢性腎不全になってしまいます。この間は自覚症状が軽度ですので、健康診断などで蛋白尿・血尿・血清クレアチニン高値などの腎障害を指摘された場合は、精密検査をおこない、定期的に通院して腎機能をチェックし、その進行を抑えることが重要です。

急性腎炎は以前は細菌感染に続いて発症するとされていましたが、環境の改善などにより、細菌関連の腎臓病は減少しています。しかし、生活習慣病の代表である高血圧や糖尿病でコントロールが悪いと、糸球体の細かい血管が動脈硬化を起こして濾過機能が低下し腎障害がおきます。進行すると慢性腎不全になります。

最近では糖尿病関連の腎不全の増加が著明です。次回では慢性腎不全の治療について述べます。

## 夏休み子ども科学講座

### 『森の王者カブトムシ・クワガタムシの世界』

夏の森や雑木林ではさまざまな昆虫が暮らしています。その森の王者カブトムシやクワガタムシの世界をのぞいてみませんか。

**講 師** 斎藤明子氏（千葉県立中央博物館資料管理研究課研究員）

**日 時** 7月24日(木) 午後2時～3時

**場 所** 図書館2階学習室

**対象・定員** 小学3年生以上 60名

**申 込み** 図書館カウンターまたは電話でお申し込みください。

**問 合せ** 図書館 ☎⑧3311

**休 館 日**

6月9日(月)、16日(月)、23日(月)、30日(月)、7月7日(月)、8日(火)

ほんの



=町立図書館=

☎⑧3311

